

大学進学ガイドンスブック

平成 28 年度版



佐賀県高等学校教育研究会商業部会

巻頭言

大学進学への指針

佐賀県高等学校教育研究会
商業部会長 徳永清成

近年、商業の専門高校から大学等への進学が増加しています。希望する大学に合格するには、早い段階から計画的に目標を持たせ、継続した粘り強い指導が必要かと思えます。もちろん、ただなんとなく大学に行くのではなく、明確な目標を持たせ、高校時代に大学で必要となる基礎的な知識・技術はもちろんのことコミュニケーション能力や困難な場面に遭遇しても、解決できる力「生き抜く力」を高校時代に指導することも大切だと思います。

この「大学進学ガイダンスブック」を各学校で十分活用していただき、一人でも多くの生徒が将来の夢実現へのステップを歩むことができると祈念いたします。

最後になりましたが、この冊子を作成に携わっていただきましたキャリア教育研究委員会の諸先生に感謝申し上げます。

☆☆ 進路指導のこんな時にご活用ください ☆☆☆

1 4年制大学への進学指導を考える

- (1) 進路選択のプロセス P 1
- (2) 進路情報の集め方 P 2
 - ①大学のホームページの利用
 - ②オープンキャンパス（大学説明会）の利用
 - ③大学の広報誌の利用
 - ④卒業生の利用
- (3) 模擬試験の受験・活用 P 3

2 大学入試の概略

- (1) 入試の種類 P 5
 - ①一般入試 ②推薦入試 ③AO入試
- (2) 大学の種類 P 6
 - ①国公立大学 ②私立大学

3 AO推薦入試の概略

- (1) 佐賀大学 P 7
- (2) 長崎大学 P 7
- (3) 山口大学 P 7
- (4) 大分大学 P 8
- (5) 北九州市立大学 P 8
- (6) 下関市立大学 P 8
- (7) 長崎県立大学 P 9
- (8) 福岡大学 P 9
- (9) 久留米大学 P 10
- (10) 西南学院大学 P 10

4 小論文について

- (1) 小論文で求められるもの P 1 0
- (2) 小論文問題の出題形式 P 1 0
 - ①テーマ型小論文 ②課題文型小論文 ③データ型小論文
 - ④融合型小論文 ⑤教養型小論文
- (3) 最近の傾向 P 1 2
 - ①政治・経済 ②情報・メディア ③生活・社会
 - ④国際問題・異文化理解 ⑤日本語・日本人 ⑥教育 ⑦福祉 ⑧環境
 - ⑨医療看護 ⑩科学技術
- (4) 指導方法の例 P 1 5
- (5) 読んでおきたい本の紹介 P 1 5

5 進学をかなえるために

- (1) 大学受験にかかる費用 P 1 8
- (2) 授業料等について P 1 8
 - ①初年度・在学中納入金のめやす ②年間の生活費のめやす
 - ③授業料の免除・減免について ④奨学金制度・特待生制度について
 - 〈資料〉 奨学金の種類と特徴

☆☆ 資料 ☆☆

(1) 県内商業高校生の受験報告書

☆☆ ご注意ください ☆☆☆

本冊子の各資料は27年度入試要項(27年～28年3月)等に基づいています。
実際の指導の際は必ずご確認ください。

(1) 進路選択のプロセス

ここでは、進路指導・進学指導の要点を簡単に示してみる。生徒の将来へ直結する場合が大きいので本人、ケースによっては保護者とも共通理解を図っていくことがポイントとなる。また、それぞれの指導の方法は、学校の進学態勢や実情に合わせるとともに、職員間で共通認識をもって設定することが大切である。

－ 高校3年間 －

1 選択場面①・・・進路指導

将来の職業観（取りたい資格・なりたい仕事）→ 就職？進学？

2 選択場面②・・・制度の情報

進学指導A ⇒ 4年制大学？短期大学？専門学校？

学部学科研究

将来への展望

職業研究＝職業観・取得できる資格の情報研究

進学指導B ⇒ 国公立大学？私立大学？ 地元？九州内？外？

→ 家庭の経済力 → 学費・奨学金などの情報収集

進学指導C ⇒ 受験の仕組み 推薦入試？一般入試？センター試

験受験の必要？（受験科目・配点等の情報）

3 情報の収集方法

進路指導室スタッフ・進路雑誌等・インターネットなどにより入手

4 指導①

授業本体での頑張り（評定に直結）

* 推薦入試対応 * 調査書評定の算出方法

* 授業以外の補習指導

（教科の実力養成・各種検定による資格取得）

* 各種模擬試験の受験（実力確認）

⇒ 県一斉模試・業者模試

5 指導② 受験指導 受験校の決定 ⇒ 入試要項の入手

小論文指導・面接指導 授業以外の補習指導

（受験系列に特化した実力養成）

－ 出口 －

受験および事後確認 1 受験報告

2 入学後の追跡

進学先での状況・学校卒業後の状況 （データの蓄積⇒今後の進路指導での活用）

(2) 進路情報の集め方

①大学のホームページの利用

各大学は工夫して様々な情報を発信しているが、大学が管理・運営しているので、プラス面での記載であることは心にとめておく必要があるだろう。大学のホームページは身近で有効な情報収集源である。希望先が決まれば、隅から隅まで目を通すくらいの意気込みが欲しい。大学広報誌にも掲載されている。

②オープンキャンパス（大学説明会）の利用

大部分は夏休みの7月から8月に開催される。時間を見つけ、ぜひ参加して欲しい。それだけの価値は十分にある。キャンパスの実際の雰囲気や施設・設備の充実度、交通のアクセス等を自分で確かめることができる。また大学の先生や在校生に質問することで、普段疑問に感じている事も解消できる。受験時の面接で、オープンキャンパスへの参加が生かされる場面も多いだろう。

③大学の広報誌の利用

興味関心がある大学の学校としての教育活動の力点や、日常のキャンパスの様がよく窺われるのが、各大学が出している「広報誌」である。大学に請求して現物を手に入れることができるが、ほとんどの大学はHPに掲載しているので、すぐに閲覧することができる。過去のナンバーも載せられているので、生徒の興味関心が広がることが期待できる。佐賀大学「かちがらす」、長崎大学「CHOH O」、北九州市立大学「青嵐」、九州産業大学「+K」などがある。

④卒業生の利用

高校の卒業生で、進学したい大学の在学学生、あるいは社会人になっているOBから直接話を聞くということも有効である。生の情報が手に入れられるので、生徒の進路選択には大きな刺激となる。学校で進学先一覧等を整備し、リストアップを図っておくことが大事だと思われる。ただ、生徒サイドから連絡を取ることは個人情報保護の観点等から難しいので、学校がチャンネルを取るほうがいいだろう。

進学希望の生徒を集め、学校でミニ講演会や相談会を開くなど学校の実情などに合わせた工夫が求められる。

(3) 模擬試験の受験・活用

模擬試験は生徒の学力の到達度を測るときに、絶好の「ものさし」となる。また、継続的に受験することで、学力の変容を客観的に把握することができるので、実際の志望校決定までの指導に有効である。各模擬試験では「個人成績票」が打ち出されるので、本人の各科目及び総合点での偏差値などで、学力のアップダウンや教科間の得意・不得意を確認できる。また、志望校の合格の可能性も表示されるので、生徒の大きな目標となり勉強の励みにもなる。

一方、受験後は「採点済みの答案」「個人成績票（例：総合成績・合格可能性評価用成績・志望校別成績及び評価・評価別人数分布・教科別成績及び志望者平均偏差値・学習のための参考資料）」「成績統計資料」とともに「学習の手引き（解答と解説）」が渡される。これは復習用の解説書で、自分の解答を確認するために解答とともに各問題の詳しいポイントが示されている。こういった資料を用いて模試の見直しをすることは、受験本番での確実な得点力アップに結び付く。受験そのものの現状での自己の学力の到達度確認も大切だが、やはり事後の対応の真摯さが真の学力蓄積には不可欠だと思われる。

次のようなことを注意して、実際の進路指導を行う必要があるだろう。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 1回だけの受験での偏差値では、信憑性はないこと。② 入試科目の違い、国公立大学・私立大学との違い、模擬試験のマーク式と記述式との違い、学部別の出題傾向の違いなど、いろいろな観点から考えて、あくまで大まかな目安に過ぎないこと。③ 受験校決定については、基本的には「本人の希望」「将来の職業選択につながった志望校選択」などに力点を置き、本人の学習到達度を確認しつつ、生徒本人も指導者も納得のいく進路指導となること。 |
|---|

【業者模試】 参考

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 記述式かマーク式か<ul style="list-style-type: none">→ 記述模試[大学受験の2次対策用]は3年間通して実施されるが、マーク式[大学入試センター試験対応]は2年生の3学期から導入される。また、3年生での記述式の結果とマーク式の結果をドッキングさせて総合評価をさせるのが通例である。② 一般の模試か大学別の模試（いわゆる「冠模試」）か<ul style="list-style-type: none">→ センター試験を受けての2次試験[前期日程・中期日程・後期日程]が実施される国公立大学や私立大学受験者層を対象とした、予備校主催の大学別の模試もある。③ 団体受験か個人受験か<ul style="list-style-type: none">→ 模試は学校で一括して申し込んで学校で受験させる場合が多いが、予備校の中には主な都市部に「会場校」を設けての受験か、自宅受験のために個人での申込みを受け付け、便宜を図る場合もある。それぞれ確認が必要である。 |
|--|

◆ 受験があった経済系の大学のG T Z (H22～H26 受験分より)

学習到達ゾーン (進研模試偏差値目安)	国 立	公 立	私 立
S 1 (75 以上)			早稲田大学 (社会)
S 2 (72～)			明治大学 (政治経済・商) 立教大学 (経済)
S 3 (69～)			
A 1 (65～)			法政大学 (経済) 関西大学 (経済) 関西学院大学 (商)
A 2 (61～)	広島大学 (経済)		
A 3 (58～)			西南学院大学 (経済・商)) 立命館アジア大学 (国際経営) 専修大学 (経営) 近畿大学 (経営)
B 1 (54～)	和歌山大学 (経済) 山口大学 (経済) 長崎大学 (経済) 大分大学 (経済)	長崎県立大学 (経済) 北九州市立大学 (経済)	福岡大学 (経済・商) 駒沢大学 (経済) 国士舘大学 (経営) 京都産業大学 (経営)
B 2 (50～)	佐賀大学 (経済)	高知工科大学 (マネジメント) 下関市立大学 (経済)	中村学園大学 (流通科学)
B 3 (46～)			久留米大学 (経済・商) 熊本学園大学 (経済・商)
C 1 (43～)			九州産業大学 (経済・経営・商) 長崎国際大学 (人間社会) 日本文理大学 (経営) 名古屋商科大学 (商)
C 2 (41～)			日本経済大学 (経済) 徳山大学 (経済) 九州共立大学 (経済) 九州国際大学 (経済)
C 3 (39～)			朝日大学 (法)

Benesse 資料 2015 年度九州・沖縄地区版 G T Z ・2015 年度 3 年生 6 月マーク偏差値より

2 大学入試の概要

(1) 入試の種類

① 一般入試

大学入試センター⁽¹⁾が全国一斉に実施する大学入試センター試験と大学独自に実施される個別学力検査（記述式試験、面接、小論文）の結果などが総合的に評価され、合否が決定する。難関校は個別学力検査を重視する傾向にある。高校在学中に取得した成績や資格、検定はほとんど評価されることがなく、普通科高校の生徒との受験競争になるため、不利な面が多い。そのため、受験する際の学習準備は、特に早期から計画的に行う必要がある。商業高校からの受験者数は、あまり多くない。

※(1)大学入試センター

10月上旬までに出席し、全国一斉に各県の会場で受験する。この結果を「一次試験」とし、志望大学独自の「分離分割方式」（二次試験）を受験する。試験結果は自己採点で行う。また、私立大学の中には大学入試センター試験で選抜を行うところもある。（本年度は平成29年1月14日（土）・15日（日）実施）

② 推薦入試

A 指定校推薦

大学や短期大学が指定した高等学校からのみ、受験が可能で学校長の推薦が必要となる。推薦されれば合格の可能性は高いが、出席する際の条件が厳しいところもある。選抜の基準は、学業やスポーツ、芸術分野など、大学・短期大学が要求する特定分野の成績、調査書等である。近年は自己推薦、社会人推薦など出身校の枠や、現役・浪人（卒業の時期）を問わないなど、推薦入学の形態も変化しつつある。

また、専願制で合格した場合は入学辞退ができず、入学後は成績や修学状況などにより次年度以降に出身校への推薦継続や取り消しなどの影響が出るのでしっかりした学習意識が必要である。

B 公募制推薦

大学や短期大学が指定した出席の条件を満たしていれば出席できる。受験に際しては、国語・英語などの学科試験や小論文・面接などを課すところが多いため準備をしっかりとっておく必要がある。

指定校推薦に比べ、より広範囲から優秀な生徒が受験するため、一定の募集定員や1校からの合格数の制限などがある場合もあり、確実に合格する訳ではない。

専門高校推薦制度採用校（佐賀県近隣）

佐賀大学・長崎大学・大分大学・山口大学・北九州市立大学など

③ AO入試（アドミッションズ・オフィス入試）

「自己推薦入試」、「公募制推薦入試」など大学や短期大学によって呼び名が異なる場合がある。出席者自身の人物像を学校側の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照

らし合わせて合否を決める入試方法である。学力試験の得点で合否を決める一般入試とは異なり、志望理由書や面接などにより出願者の適性や顕著な個性を多面的に評価し、合否を決める。提出書類は「自己推薦書」「志望理由書」「活動報告書」「小論文」などのいずれかが一般的で、それぞれ 400 字程度から 1,200 字程度と様々である。記載にあたっては、相当の時間をかけて個性や意欲が、確実に相手に伝わるための文章構成にすることが大切である。

【AO入試の主な日程】

			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A O 入 試 日 程	国	センター試験を課す		校 内 選 考		出 願					
	公					センター 試験出願			合格者発表		
	立	センター試験を免除				出 願	選 考				
	大							合格者発表			
	学		エントリー			出 願					
	私	立 大 学					合格者発表				

【推薦入試の主な日程】

			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
推 薦 入 試 日 程	国	センター試験を課す		校 内 選 考				出 願			
	公					センター 試験出願			合格者発表		
	立	センター試験を免除					出 願				
	大						選 考				
	学						合格者発表				
	私	立 大 学	エントリー			出 願					
							合格者発表				

(2) 大学の種類

① 国公立大学

国公立大学入試では、原則として前期日程・後期日程に定員を振り分ける「分離分割方式」によって試験が実施される。ただし、「前期日程のみ」あるいは「後期日程のみ」で入試を実施する大学・学部もある。また、公立大の一部の大学・学部で、前期・後期の中間に「公立大中期日程試験」を実施しているところもある。

② 私立大学

私立大学入試では、国立大学の一般入試と違い、大学入試センター試験を受験する必要が少なく（次第に増加しているが）、試験科目も基本的には3教科のみ（文科系…英語・国語・地歴公民もしくは数学）と、国公立大学に比べ試験科目数が少ない。その分、試験科目で問われる内容の難易度が高く、より教科に深い専門性が問われる。